

【資料】

2022.08.09

於 二宮町社会福祉協議会

二宮農園と農ある暮らしを広める会について

二宮の恵まれた風土を活かした暮らしをする事で、二宮ならではの暮らしを満喫したい。
風土を再生し維持する体制を創り次世代に繋いで行きたい。

・二宮農園、子ども農園

一度畝立てをしたらリレー混植栽培を継続し、移植ゴテ、鋸鎌、摘果バサミしか使わない。
水やり、肥料、農薬は不要。草を活用し裸地を造らず耕さない。

→高齢者や子ども、忙しい子育て世代向けに特化した農法です。

慣行農法と狙いが違うので、考え方、やり方が異なるために専用の知識と技術が必要です。

①【自給率 30%~50%】野良仕事が月に2日から3日できる家庭は・・・耕作面積 → 20㎡

②【自給率 80%】野良仕事が週に1日できる家庭は・・・耕作面積 → 30から50㎡

・二宮農園以外の農園活動(下図参照)

田んぼ、棉栽培、ハーブ栽培、椎茸栽培、穀類の栽培、(落花生栽培は別の活動)

町民が自給菜園を営む事で、野菜の自給&農地の維持保全&風土の保全の一助とする。

・農園系の活動以外の取り組み(下図参照)

・薪山の再生、竹林整備・・・椎茸原木、薪、炭原木、竹炭、竹パウダーの確保、居場所造り

・沢整備・・・田んぼの水源、山の水脈整備、鉄砲水、土砂災害の予防

町民が取り組む事で、災害予防と災害発生時の耐性を高めつつ風土の保全を行う。



たんぽぽささえたい 2022. 8. 9

◆二宮農園 二見さんの話をきいて

- 農園を通して新しいコミュニティができていることを感じる
- 一緒にみんなでやっていく、畑や経験を共有することがコミュニティをつくっていく
- 農園がみんなのものであるからこそ、人と人がつながっているのだろう
- 畑を通してつながっている
- 畑や活動が情報交換をする場になっている
- コミュニティを地域活動につなげるためにはなにが必要か
- 地域を維持するためにやらなくてはいけないという義務ではなく、興味関心のあることで活動しているうちに地域活動にも興味が広がるのが理想的
- 地域活動にかかわりたいと思っても、生活を維持すること(経済活動)が優先されて手が回らない実情がある
- 子どもがいないと入りにくいコミュニティがある
- 高齢になると組活動が大変(組長など)
- 地域に開かれた施設、商店になりたい
まずはトイレの貸し出しのようなことから取り組みそう
- 居場所はあればあるほどいい